

藤沢市立滝の沢小学校

研究テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～よく考える子が育つ授業づくり～

1 実践の目的

本校では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～よく考える子が育つ授業づくり～」をテーマに、授業改善に取り組むこととした。学力・学習状況調査では、国語正解率が全国平均に比べて10%低いことや、無回答の割合の多さ、日々の授業の様子などから、じっくりと学びに向かうことができる子どもを育てたいという教員の思いが生まれた。また、近年本校において大切にしている語彙力の向上を目指す取組も、あわせて行っていく。有識者の講義を受けたり、教師自身が学ぶ姿勢を大切にしたりしながら、総合的な学習の時間を中心に、児童の学びに向かう力を育てる授業づくりを検証していきたい。

2 実践の内容

(1) 山梨大学 茅野政徳先生 講演会

2023年5月22日、昨年度に引き続き、山梨大学准教授茅野政徳先生を招聘し、本校の研究テーマに沿った講演をお願いした。今年度は、できるだけ早い段階で茅野先生の講演を受け、日々の授業に生かしたいという思いから5月に実施をお願いした。「よく考える子を育てる授業づくり」のテーマに即した非常に学びの多い講演であった。

- よく考える子が育つ環境になっているか
→じっくり考える時間・静寂が必要
- 粘り強く取り組んでいるとは？
→消しゴムを使う
教科書をめくって前の学習に戻る

時間が欲しい、もう少し・・・

- 国語の教科書の「まとめよう」「ひろげよう」の豊かさをもとめる問いを活用する
- 「ずれ」は対話を生む
- 無意識のつぶやきや反応(知のざわめき)をどんどん褒めて引き出す
- I 情報が出るような発問をすることで真剣な議論につながる。その後 YOU 情報、THEY 情報を集めて活用していく
- グループ活動では教師が見通しを持つこと。どう関わって欲しいか。
- 振り返りの内容について
などなど、たくさんのことを教えていただいた。自分の授業における課題を見つめ直し、今後にすぐに生かすことができる有意義な研修となった。



(2) 研究授業の実践

校内研究では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すうえで、総合的な学習の時間を見直していこうということになった。授業は年1回と決め、全員で授業を考えて検討していくものとした。それを自分の学年に落とし込み、滝の沢小学校全体の総合的な学習の時間の在り方を探っていく。総合的な学習の時間は、現在、行事と絡めてい

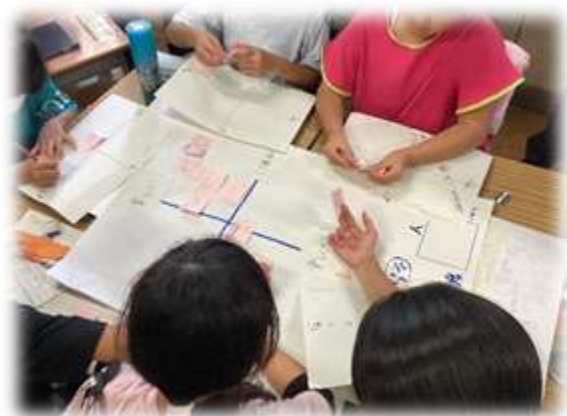
ることが多く、また、これは総合的な学習の時間にすべきことなのか、というものも年間計画に含まれていた。そういったこともあり、改めて総合的な学習の時間について学びなおそうということで、藤沢市教育委員会指導課の織田宗之指導主事を招聘し、講話をお願いした。その話を受けて研究授業の単元計画や単元目標を全職員で考え、共有し、よりよいものへと授業づくりをしていった。授業は4年生でクラス総合をすることになった。子どもたちに、課題設定をさせたところ、「速く走るためには」というテーマに決まった。自分たちで決めた探究課題にどう取り組むか、最終的なゴールをどうするか、など、教員一人一人が自分事として授業を作っていくこととした。その中で総合的な学習の時間に大切な4つのプロセスを意識し、子どもたちが次々と新しい課題を見つけられるような声かけや思考ツールの活用を行った。また、藤沢市にある「プレス工業」の陸上部の選手を招いて走り方を教わるなど、地域の外部講師を活用することで、子どもたちの意欲を高め、深い学びへとつなげることができた。研究会の日は、全学年午前授業として、教員も学びやすい環境を整えた。



(3) 全校で取り組む「金トレ」

昨年度より引き続き、週一回金曜日の朝のモジュールの時間は全校で語彙力を高める「金トレ」を行っている。「教室で使えるカクトレ（東洋館出版社）」を使用し、学校

全体で系統立てて語彙力や書く力の向上を目指した。書くことに苦手意識を持つ児童は多い。毎週の積み重ねと、振り返りにおける自己評価の習慣化で、達成感や自己肯定感の高まりを狙った。



3 実践の成果

全教員が、「よく考える子を育てる授業をする」、という同じ目標を持ち、日々取り組んできた。一朝一夕では身につかない力であるため、今後も継続して取り組んでいく必要がある。少しずつではあるが、主体的に子どもたちが学習に取り組み、お互いに関わり合いながら活動する姿が見られるようになってきている。総合的な学習の時間を有意義なものとし、学ぶことの楽しさを味わえるような授業づくりをするために教員自らが学び続ける必要性を再確認することができた。

4 今後の展開

主体的・対話的で深い学びを実現させるために、毎日の授業が児童にとっても教師にとっても、心から楽しいものでありたい。

将来を担う子どもたちに必要な資質・能力を育てるための授業実践ができるよう、今後も研究・研修を重ねていかなければならない。次年度以降も総合的な学習の時間を軸に、引き続き研鑽に励んでいきたいと思っている。